

ニュースレターくまもと

# News Letter

## Kumamoto

冬  
Winter  
2013

vol. 100

■Publisher : Kumamoto International Foundation  
KCIC 4-18 Hanabata-cho, Chuo-ku, Kumamoto City, 860-0806  
Tel : 096-359-2121 e-mail : pj-info@kumamoto-if.or.jp  
URL : http://www.kumamoto-if.or.jp/

■発行 : 一般財団法人 熊本市国際交流振興事業団  
〒860-0806 熊本市中央区花畑町4-18 熊本市国際交流会館  
Tel : 096-359-2121  
e-mail : pj-info@kumamoto-if.or.jp  
URL : http://www.kumamoto-if.or.jp/



### CONTENTS



年頭のご挨拶 .....1P  
多文化共生月間～医療通訳とは～ .....2P  
フェアトレードタウン国際会議in熊本市 .....3P  
幸せの国、ブータン ホストファミリー募集 .....4P

ちよつと言わせてはいよ .....5P  
世界を知る .....6P  
未来のために .....7P  
ちよつと日本語 .....8P

## 2014年 年頭のご挨拶

### 【年頭のご挨拶と国際交流会館指定管理者選定のご報告】

謹んで新春のご挨拶を申し上げます。旧年中は皆様からの多大なるご支援、ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。初めに、昨年秋に行われました熊本市国際交流会館の指定管理者の選定に於きまして、平成26年度から5年間、再び私ども事業団と株式会社キューネットが組織する熊本市国際交流会館共同企業体が指定管理者として承認を受けましたことをご報告いたします。これからも皆様にとって、更により良い運営が出来ることができますように努めて参る所存でございますので、引き続き宜しくお願い申し上げます。

### 【開館20年の歩み】

さて、本年2014年は、熊本市国際交流会館にとっても開館して20年と言う記念すべき節目を迎える年にも当たります。改めてその歴史を振り返りますと当館は1994年9月(平成6年)、熊本市の国際化の拠点施設として、国際交流機能と4カ国の同時通訳設備を持つホール、貸し会議室やレストランなどを持つ複合型文化施設としてオープンしました。オープン当初は、その施設名からか多くの市民の方々に「外国人でないと使えないのですか?」という質問が多かったことを記憶しています。しかし、徐々に誰でも使うことが出来る施設だと広く認識されてきました。

一方、国際交流という観点で振り返ってみますと、当時は全国的に、海外の諸都市と、地方の県や市町村レベルで友好姉妹都市を結ぶなど、行政が国際交流を推進する時代でありました。熊本市に於いても、中国・桂林市(1978年)、アメリカ・サンアントニオ市(1987年)、ドイツ・ハイデルベルク市(1992年)の3都市との友好姉妹都市を結ぶなど、主体的に市民を募ってそれら諸都市を訪問する「市民友好の翼」が行われるなど盛んに行われていました。このような取り組みが徐々に市民の方々にも

育まれ、現在では民間団体は元より個人レベルで自由に国際交流が出来やすい時代になってきました。

また、当時、熊本市で生活する外国人数は約2,900名(熊本県は約5,200名)ほどでしたが、現在は約5,000名(熊本県は約9,000名)になるなど、急速に生活者としての外国人の方々も増加し、皆様の周辺にも外国人が生活することが珍しいことではなくなってきました。そのような中、多様な文化背景を持つ方々と、互いの文化を尊重し互いに認め合うことが必要な多文化共生社会の構築が求められています。

最後にもう一つお伝えしたいことがございます。それは本稿も1995年11月の初刊から100号を迎えることが出来ました。これもひとえに皆様のご愛読があってこそその事だと深謝しています。



以上、本稿では、新年のご挨拶とともに、指定管理者選定のご報告、開館20周年、本稿発刊100号と記念尽くしてはございました。皆様の本年のますますのご健勝とご発展を祈念申し上げ、ご挨拶といたします。

## 多文化共生月間～外国人と医療～

私ども熊本市国際交流振興事業団では、毎年2月を「多文化共生月間」と位置付け、日本人、外国人市民が互いに文化の違いを理解、尊重し共に暮らしやすい社会を作っていくために何が必要かを皆様に考えていただく機会として、パネル展(期間:2月1日～2月28日、会場:熊本市国際交流会館1Fエントランス)や、シンポジウム(2月8日を予定)を開催いたします。今回のテーマは「外国人と医療」です。熊本市においては、在住外国人数の増加、定住・永住化が進展、さらに高齢化が見られる中、「医療通訳」は大きな課題の一つとなってきます。日本語が話せない外国人市民が病院で受診する際にどういった言語支援が必要なのか、本章では、その医療通訳活動に取り組んでいる「メディカルサポートくまもと」代表の最相博子氏に、海外や日本における医療通訳の現状をお伝えいただきます。

# 医療通訳の取り組み

メディカルサポートくまもと

代表 最相博子氏

スイスやアメリカのような移民国家ならずとも、外国人居住者が増えている現状において、社会ニーズの一つとして医療通訳が挙げられます。これは、必ずしも在住の外国人の方に限りませんが、その国の言語があまりよくわからない方が医療機関へ行った際、医師、看護師、薬剤師などの説明や指示が、はっきり理解できず、きちんとした医療が受けられないという状況をなくし、母語住民と同じ質の医療を受けられるよう、第3者の通訳者が通訳をするシステムです。スイスやアメリカ、オーストラリアなどでは医療通訳制度が既にきちんと整備されています。

日本でも、神奈川県「MICかながわ」(特定非営利活動法人多言語社会リソースかながわ)というNPO法人が2002年に設立され、医療通訳派遣事業を始めています。県医師会、県病院協会等の協力のもと、専門知識と技能を有する医療通訳スタッフを養成、登録し、協定医療機関の依頼を受けて通訳を派遣するシステムを運営しています。初年度の派遣件数は269件、10年を経過した今年度は4,000件近くあったとのこと。対応言語は12言語に及びます。

2006年このMICかながわが中心となり、「第1回医療通訳を考える全国実践者会議」が開かれ、私はこの会議に参加し、MICかながわ以外にも日本のあちこちに医療通訳派遣制度が構築されていることに驚きました。早速、県国際協会の助成金を利用して医療通訳の勉強会を実施しましたが、病院側の協力を得ることが難しく、制度構築には至りませんでした。しかし要請がないわけではなく、現状は、要請がある時に、熊本市国際交流振興事業団の協力のもと、通訳者を派遣するという形が続いています。

今回、「多文化共生センターきょうと」が主催する「第4回医療通訳を考える全国実践者会議」に出席、活発な活動をしている他県の現状などをしっかり学ぶことができました。医療通訳というのは、当然重篤なケースもあり、通訳の質が大きく問われるものであること、医療機関の協力なしにはその制度構築、またスムーズな派遣が行えないこと、行政の関わり必要性など様々な観点から考えてゆかねばならないことを身に染みて感じました。

私がこれまでに関わった医療現場の通訳には、重篤なものに発展する可能性のあるケースは皆無でしたが、事業団が関わった中国語のケースにはそのようなものがあつたと

聞いています。全国の症例では、がんの告知に立ち会う場面などもあり、国によってはがんの告知をしないのが通例である場合など、その国の文化、社会状況を知らずに通訳をするととんでもないことになるケースもあります。医療の専門用語、知識だけでは不十分で、やはり通訳を必要とする方の国の背景なども幅広く学んでいかなければなりません。

かつては、医療通訳ボランティアという表現が多く使われていましたが、今回の会議では、ほとんど使われず医療通訳者あるいは医療通訳サービスという名称が使われていました。このことは、単に名称の問題ではなく、やはり前にも述べました通訳の質ということと大きな関わりがあると思います。言葉ができ、研修さえすれば誰でもできるというものではなく、ある一定の条件をクリアした方が活動できるという認定制度の必要性もあります。すでにスイスなどヨーロッパの例では認定制度があり、アメリカ、カリフォルニア州でも来年7月には認定通訳制度が実施されるそうです。熊本の現状を考えると、このことはまだまだ先の話のように思いますが、通訳の質に関しては最初から念頭に入れておくべきでしょう。

また通訳が必要となる言語ですが、英語に関しては、英語を理解する医師が多くいますので、何とかなっているというのが熊本の現状のようですが、中国語、韓国語に関しての需要はすでにかなりあるように思います。

これからは熊本においても医療通訳の制度を立ち上げ、在住、旅行者を問わず、日本語でのコミュニケーションが困難な方への医療通訳サービスの提供ということを考えていかなばならないと強く感じています。これまで私どもメディカルサポートくまもとが、細々とではありますが、培ってきた経験を軸に、質の良い医療通訳サービスが提供できるよう、関係機関、団体と連携を深め、医療通訳の研修に力を入れていきたいと思っています。他言語でのコミュニケーションが可能な方どうぞご協力をお願いいたします。

連絡先 **メディカルサポートくまもと**

TEL : 090-2968-4971(最相)

E-mail : h2i3r2o1k2o@yahoo.co.jp

## 熊本から世界へ ひとつながりフェアトレード 第8回フェアトレードタウン国際会議in熊本市

2014年3月28日(金)から30日(日)の3日間、熊本市国際交流会館で第8回フェアトレードタウン国際会議が開催されます。(主催:フェアトレードタウンジャパン(FTTJ)、フェアトレードシティくまもと推進委員会、共催:熊本市、尚、前日の27日に熊本独自プログラムとして国際学生フォーラム\*が開催予定)フェアトレードタウンとは、官民協力してフェアトレード製品の推進を行っている都市として、認定機関から認められた都市のこと。フェアトレードタウンのうち、行政単位が熊本市のように市の場合は、フェアトレードシティと言われます。



2011年6月4日、熊本市が世界で1000番目、アジアで初めのフェアトレードタウンに認定され、その後世界のフェアトレードタウンは1350へ増え続けていますが、アジアのフェアトレードタウンは依然として熊本市のみという状況です。今回の会議には海外約20ヶ国を含む国内外から200名以上が参加予定で、アジアで初めてのフェアトレードタウン国際会議として、今後、国内、アジアでフェアトレード旋風が巻き起こることが大いに期待されます。本会議開催に向け、フェアトレードシティくまもと推進委員会代表(会議実行委員長)の明石祥子さんにお話しをお伺いしました。

### フェアトレードタウン国際会議とは?

フェアトレードタウン、そして今後フェアトレードタウン認定を目指す都市の関係者が集い、公正な地域経済社会の構築のためのつながり、情報交換を行います。

### 熊本会議の見どころは?

4月から「おもてなし」「生産者見本市」「学生フォーラム」「シティツアー」「広報」の各ボランティア・チームに分かれ準備を進めてきた熊本の市民力で、豊かな緑、きれいな水、やさしい人、安全なまちを発信したいと思います。

今回の会議には、WFTO(世界フェアトレード機構)の会長 Rudi Dalai氏とFLO(フェアトレードラベル機構)の理事長 Molly-Harisson Olson氏の世界の2大フェアトレード組織のトップが顔を揃えることで大きな注目を集めています。さらに、これまで先進国の各都市からの参加であった当該会議に、ミャンマー、ラオス、バングラデシュ等アジアの生産者が出席、産品フェアを開催することは画期的なことで、アジアにフェアトレードを拡げていく機会にしたいと願っています。

### 市民の方々の参加は可能でしょうか?

可能です。但し、29日(土)、30日(日)の本会議プログラムへは事前登録が必要で、有料となります。(10,000円、昼食代含む - 早割7,000円/1月31日まで)

### 期待することは?

この機会に、熊本の皆さんにフェアトレードを知ってもらい、応援をしてもらいたい、そして、立場の弱い人たちを支え合うことができる誰もが自分らしく生きていける、希望が持てる社会=“真のフェアトレードタウン”を実現出来ればと思います。

\*27日に開催される学生フォーラムの見どころは、大学としてフェアトレードを啓発していくフェアトレード大学という新しい取り組みについて話し合いがされる予定です。フェアトレード大学運動の進んでいる海外の学生が事例発表します。

今後、本国際会議に関する情報が本国際会議オフィシャルホームページで更新されます。

<http://www.fairtrade2014.org/>

## イベント情報 【2014セント・パトリックス・デイ・パレード熊本】

セント・パトリックス・デイを祝うため、アイルランドのシンボルカラーである「緑」を身に付けたボランティアの団体及び個人によるパレードです。

日 程：2014年3月8日(土)

実施機関：セント・パトリックス・デイ・パレード熊本実行委員会

開催場所：コース 上通→下通→サンロード新市街(アーケード街)

集合場所：加茂川上通り中央店、大橋時計店前

参加費用：無料

主催団体名：熊本アイルランド協会(担当者名 笹原 元子)

電 話：096-366-5151

<http://www.kumamoto-ireland.org>

セント・パトリックス・デイ・パレード熊本 URL

<http://parade.kumamoto-ireland.org>

# ●ホストファミリー募集●

JENESYS2.0 ブータン高校生の来熊に伴い、

## 「ホームステイ(2泊3日)受入家庭」を募集します。

この機会に是非、ご家族で「国際交流」に触れてみませんか。



**日程:2014年3月14日(金)夕食  
~3月16日(日)朝食**

- \*3月16日(日)昼食は歓送会を行います。参加費は無料です。
- \*1家庭あたり2名の受け入れをお願いしております。
- \*多数のご応募を頂いた際には、当センターにて選考の上、ホストファミリーを決定させていただきます。何卒ご理解下さい。

ご興味ございましたら、お気軽に下記担当者までお問い合わせください。

FAXまたはE-mailにて、ホームステイ応募用紙をお送り致します。

【お問い合わせ・申込み先】 一般財団法人日本国際協力センター 九州支所

担当: 大澤 友未(おおさわ ゆみ) TEL:093-512-3620/FAX:093-512-3625

E-mail:kyushu.koho@jice.org

### 「JENESYS2.0」とは、

青少年交流を通じて、日本の強みや魅力を世界に向けて発信し、各国において日本ブランドや日本的な価値への関心を深めることにより、日本経済の再生に資する目的で日本政府が推進する事業です。アジア及び北米の41カ国・地域から約30,000人の青少年が日本を訪問します。

### ブータンってどんな国？

インドと中国にはさまれている、世界で唯一チベット仏教(ドゥク・カギユ派)を国教とする国家です。民族はチベット系8割、ネパール系2割。公用語はゾンカ語ですが、政府の公式な文書などは英語で書かれるため、英語は準公用語的な地位にあります。首都はティンブー。

2011年3月12日 東日本大震災の翌日に国王主催の「供養祭」が挙行され、18日には義援金100万ドルが、日本に贈られました。

主食はお米ですが、粘り気の無い白米、赤米などが主流です。おかずのメインは唐辛子。ブータンでは、唐辛子はスパイスではなく野菜として扱われ、これをチーズ、バター、塩、山椒と共に煮込んだエマ・ダツィが、最も一般的なブータン料理です。これを基本に様々な野菜や肉を入れてアレンジします。

日本語・英語・ゾンカ語・筆談・ジェスチャーで異文化コミュニケーションを楽しもう!

ホームステイは普段の家庭に温かく迎えていただき日常生活を共にする中で、日本の文化や国民性に対する理解を深めることが目的です。特別な準備は必要ありません!

### 【日程(予定)】

- 3月12日(水) 熊本着、熊本市役所表敬訪問
- 3月13日(木) 学校交流(熊本県内高校訪問)
- 3月14日(金) 企業視察、工芸体験、熊本城視察 【夕方】ホームステイ開始
- 3月15日(土) ホームステイ
- 3月16日(日) 【昼食】歓送会
- 3月17日(月) 東京へ移動



# ちょっと 言わせて はいよ

「国際人」と語学  
元 EU 国際公務員・水俣条約外交会議  
語学ボランティアコーディネーター

板垣 幸昌さん



水俣条約外交会議語学ボランティア  
コーディネーターとして、活動の様子(写真中央)

初めまして、板垣と申します。今回は、SIAC(同時通訳者協会熊本)代表の最相博子先生とKIF(熊本市国際交流振興事業団)様のご協力得水俣条約のボランティアコーディネーターという素晴らしい体験をさせて頂きました。その体験を元に少し私なりの国際人とは、そしてそれを支える語学的重要性(特に英語)を書かせて頂きます。

昨年10月熊本市で「水銀に関する水俣条約」の採択・署名が行われました。これは国連が主催する国際会議、しかも地方で行われる数少ない大きな国際会議です。世界150ヶ国以上の代表が熊本・水俣を訪れる滅多にないチャンス。そこに参加できて本当にうれしかったです。私は以前フランスのストラスブールでEDQM(欧州薬局方)に所属して、EUの国際公務員をしていましたが、今回は生まれ故郷、日本での国際会議。国際会議自体慣れているとは言え、初めは色々どきどきでした。しかし最終日には世界各国の大臣・大使の皆様「熊本での会議・運営そしてボランティアの皆さん、すべて素晴らしかった」と異口同音の賛辞を頂いたことをここにご報告させて頂きます。

所で皆さんの気になる事の一つに、「国際会議に出席されている方ってどんな方々?」という事があると思います。大臣・国際弁護士・各専門機関の研究者いろいろ肩書きが違いますけど、皆さん「国際人」です。私の言う「国際人」とは、自国の利害を超えて、その課題に真っ直ぐ取り組む方々。日本でいつも報道されているような「日本は経済力では世界第2位」のよう自国優先主義はあまり感じられません。無論会議の議題では、各国譲れない

点もあるでしょうが、それは折衝を重ね解決していきます。世界は既に「新世界秩序」=New World Orderに近づいています。

ここで一つ皆様にとって頂きたいのは、語学の能力の重要性です。いくら「新世界秩序」といってしましても、会議の参加者は、150ヶ国以上。言語も多岐にわたりますが、国際会議で使われる言語の大半は英語とフランス語です。ここからは英語を学ぶ重要性を少し話したいと思います。

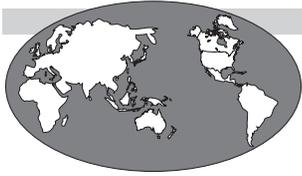
まず英語と言う言葉は、単なる英語圏の言語である他に「国際共通語」としての一面があります。多くの国際会議において各国の代表団(英語が母国語で無い場合)が主に使う言葉が『英語』です。すなわち英語をマスターするだけで、数億人の方々と友達になる可能性があり、スカイプなどで対話が可能となります(国際会議の場でも英文法・発音が完璧な方は少ないので、気持ちを楽に持って下さい)。この英語の重要性はあまり日本ではクローズアップされませんが、この機会に英会話の重要性を再確認して頂きたいです。

次に皆さんが興味を持たれる事は、「どのように英語を勉強/マスターするか?」と言うことでしょう。今までの通訳等の経験から言いますと、日本の方々の多くの欠点は、「聞き取り」の軽視です。海外では、「あいまい」を嫌います。YESかNOか。分かっているか?分かっていないのか!それを知ること、そしてその意志表示することが基本です。ですから自分が「適当に分かっているつもり」ではダメなのです。まず皆さんが英語を勉強するに当たっては、当面(聴解力)を中心にお勉強することをオススメします。初めはインターネットでラジオ番組を聞き流すのもよし、好きな映画を何度も見て、内容が分かってから字幕を外すのも良いでしょう。とにかく、相手が何を話しているか?これに注意してみてください。

最後にある程度自信が持てるようになったら何より「実践」です。なるべく多くの機会に(英語話者)と接しましょう。中々機会がないとか、時間が合わないなど色々な事情があるでしょうが、一度でもよいので語学ボランティアや熊本市の国際交流員が主催するイベント等に参加してみてください。参加した事により新しい友人が増え、色んな可能が増えるでしょう。そして自分の英語がどれだけ通じるかを実感して、その喜びを感じつつ、また更に上のレベルを目指して下さい。



約10年前に勤務していた、Strasbourgの欧州議会



## 世界を知る It knows the world.

このページは世界を知るをテーマに「国際協力」については、独立行政法人国際協力機構（JICA）デスク熊本や、国際交流、協力分野で活躍している皆さんのご協力を得て、日本で生活する私たちには日常知ることができない興味深い世界の状況を紹介します。

### セネガルの好きな言葉 “ジャム・レック”

青年海外協力隊 猿渡 真由美さん

(平成23年9月～平成25年9月セネガル派遣、職種:エイズ対策)

「アフリカ」と聞いて思い浮かべるものは何ですか？

サバンナで悠々と歩くゾウやキリンでしょうか。雄々しいライオン？それとも秘境と呼ばれる所に住む様々な部族の人たち？

セネガルから帰国した時、よく聞かれたのが「ライオンは見た？」でした。でも、私が住んでいたセネガルには野生のライオンは生息していません。

セネガルは西アフリカに分類され、サハラ砂漠の南側に位置しています。サバンナではなく砂漠が広がり、一般的にはサヘル地域（サハラ周辺の地域）と呼ばれています。なので、ライオンもゾウもキリンも生息することができないのです。居るのは、ロバやラクダ、ハリネズミなどです。時にはサソリを見かけることもありました。



街でよくみる働き者のロバ

気候はステップ気候で、雨季と乾季に分かれます。雨季の時期は3か月ほどしかなく、雨季が過ぎると全く雨が降ることはありません。そんな過酷な環境の中、セネガルの人たちは暮らしているのです。過酷な環境で暮らしているためか、みんな周りの人に対してとても親切です。その優しさは、あいさつの中にも表れています。

「こんにちは」から始まり、「家族は元気？」「仕事はどう？」など次々に色々なことを聞かれます。それに対して「家族は元気だよ」等々応えていくのですが、そのあとに

必ず言うのが「ジャム・レック」です。最後は挨拶している人たち同士で「ジャム・レック」「ジャム・レック」と言ったりします。

この「ジャム・レック」、日本語ではどのような意味だと思いますか？「ジャム＝平和」、「レック＝だけ」。つまり「平和だけ」という意味なのです。

普段のあいさつから「平和」という言葉を使うためか、セネガルの人たちは争いごとを好みません。派遣1年目で迎えた大統領選挙。アフリカで見受けられる暴動などが予想されていましたが、大きな騒動になることもなく、無事に終了したくらいです。セネガル人に言わせると「セネガルではジャム・レックだからね!」と。

この「平和だけ」の国で学んだこと:周りの人に対する親切な心。友達を大切にもてなす気持ち。一緒にいるという時間を大切にすること。これらのことをこれから日本でも大切にし、また周りの人に実践していきながら伝えていきたいと思っています。「ジャム・レック」の世界を目指して。



職場の同僚の家族と

# 未来のために

ここでは、私たちの未来を考える上でとても重要な視点である共に生きる社会、多文化共生について専門家である羽賀友信さんにシリーズでご寄稿いただいています。2月に開催予定のボランティア研修会に向けたボランティアの心構えについて、ご寄稿いただきました。

## 『私でもできる』から『私にしかできない』へ

地域の国際化推進に向けた3つのキーワードは、「交流」「多文化共生」「国際協力」があります。それらに共通することは、ボランティアの重要性です。セーフティネットとしての社会のありようを考えると、一人では生きていけない現実があります。そこで、他人との関わりが重要になってきます。国際的な課題においても、日本の課題が共通項として見えてきます。高齢化、少子化、孤独死、無縁社会、災害復興、国際結婚、就労、子育て、発達障害、病気などの言葉が思い浮かびます。特に高齢化と少子化により、団体自治が右肩下がりになっています。そのため地域の課題は自分で解決しようとする「住民自治」の考え方が、特に重要になります。

我々をとりまく社会環境を大きく俯瞰した時、私たちにとって「世界の中の日本」「世界の中の地域」「世界の中の私」という視点ははずせません。これからの国際社会にとって「共生」を最優先事項として何をすべきか考えることが必要です。その基本として「他人事」と思わず、「自分事」として考えられる人材の存在は、大きな意味を持ちます。入り口は、「私にもできる」ではじまり、ゴールは「私にしかできない」という使命感を持った人材の育成が求められています。

例として、災害時のボランティア対応が挙げられます。災害で財産や家族・友人などを物理的に失くすことは潰失(かいしつ)と呼ばれ、立ち直る気力や希望など、精神的に失うことは喪失(そうしつ)と呼びます。災害時のボランティアは、災害により希望を失っている被災者のそばに寄り添い共感し、喪失感が軽減され希望がもてるようになるまで支援する存在です。ボランティアも、

被災者支援を通して現実と真剣に向き合うことになり、深く相手を思いやることにより有用感をもつことができます。結果、自分の存在価値を自覚し、さらに使命感に変えていくことによって、大きな人間的な成長へと繋がります。

ボランティア活動が、国境を越える場合には、相手の文化を尊重しニーズに合わせて活動することが重要ですが、言語能力も大きく問われます。この場合の言語能力とは、多言語・多文化能力であり、一方的な価値観を押し付けるのではなく、相手に合わせて文化通訳ができる能力も含まれます。文化は、その国(人)のアイデンティティであり、これを無視した活動は実質的な効果に繋がりません。日頃からこういった人材を育成することが、良い地域を作ることに繋がります。「マザーテレサ」が残した「愛の反対は憎しみではありません、無関心です」という言葉があります。誰かの役に立ちたいという思いを、地域から世界に繋ぎ、「私にもできる」が「私にしかできない」に変わるような人材育成の必要性が日本に問われています。



筆者:羽賀 友信さん  
長岡市国際交流センター「地球広場」センター長  
新潟NGOネットワーク顧問  
JICA地球ひろば 国際協力サポーター  
長岡市教育委員、JICA専門家  
※当事業団多文化共生アドバイザー

## あなたの企業も一緒に情報発信しませんか!?

この「ニュースレターくまもと」は、当事業団の機関紙として平成7年11月の創刊以来、熊本の国際交流・協力に関する情報を、日本各地の国際交流協会、国際交流・協力機関や市民、在住外国人の方々を中心に幅広く発信し、国際交流・協元に感心を持つ人、開発教育関係の教育者、留学を考えている人、異文化理解に興味を持つ人など、多くの方々にご愛読いただいています。

\*webでも公開しています。( <http://www.kumamoto-if.or.jp/> )

発行:年4回(4月、7月、10月、1月) 部数: 3,000部

配布先:市内の小・中学校、高校、大学、全国の国際交流協会、市内の国際交流・協力団体、当事業団のボランティア登録者及び賛助会員(約500名)、熊本市役所関係機関(区役所、市民センター、公民館等)、熊本市国際交流会館内

広告の種類:1/4ページ(この広告募集のサイズです。)

契約期間及び料金:1/8のおためしサイズ(1回) 5,000円単発(1回) 20,000円、半年契約(2回) 30,000円  
年間契約(4回) 40,000円

★まずは、1/8のおためしサイズ(1回5,000円)で貴社の情報を発信しませんか!

ちよっと Japanese Tip

日本語と、モロッコの今

NPO法人日本語サポートあさ  
代表 小川 ひろみ さん

いつも「ちよっと日本語」にご寄稿いただいている小川さんは、現在モロッコでJICAシニア協力隊員 日本語教師として活躍中です。今回は、モロッコの日本語事情をご紹介します。

今、モロッコにいます。地球の反対側で、私たちはモロッコのことをほとんど知らないのに、ここでは所謂「クールジャパン」、日本は大人気です。日本留学も日系企業に就職という具体的な目標も全くないのに、日本語熱は高く日本語講座40人の学生募集に300人も集まりました。入講試験の一部に「知っている日本語を書け」というのを課題したところ、アニメ関係と思われるものが並び、中になんと「しね・じゃあね」がいくつかありました。50台の男性大教授が「じゃあね」と帰っていったときは顔とその言葉のギャップにひっくり返りそうになりました。「ワンピース」他、日本のアニメはフランス語でも読むことができますが、インターネットで日本の最新のドラマもみることができます。日本のアニメはみんな大好きですから、クマモングッズをお土産にして熊本を宣伝しておきましたよ!

モロッコのフェズは内陸性気候のせい、寒暖の差が激しく、あつという間にもう、コートの子供になりました。アフリカといえど、寒いです。日本語のクラスがはじまって2週間、色々なことがようやくわかってきました。

先週から、大学構内で学生がデモ行進をしています。だんだん、その輪が大きくなり今朝は学生が100人以上集まって氣勢をあげ、全学授業ボイコット休講でした。アラブの民主化、イスラム勢力、西サハラとの領土問題など、この国にも政治問題は山積しているため、1970年代に東京で学生生活を送った私としては、そのうち機動隊が来て、火炎瓶が飛んで、と思いきや!掛け声のイラッヤー! オットー(そのように聞こえますが)の声はなんと、学食値上げ反対!寮施設改善!とっているそうで、とても和やかでアラブの国の学生デモと意気込んでみると拍子抜けしてしまいました。

学生デモで授業ボイコットといえど、日本語授業は必修でもなく自主参加の講座なので、昨年やその前の修了生が「手伝うことないですか?」と次々にはいつてきて、日本語の教室はいつもより賑わっていました。そんな学生たちは来日経験もないのに、不思議なくらいにとっても流暢に日本語を話します。母語がアラビア語で、小学生からフランス語必修、高校から英語、ほとんどの学生は最低3ヶ国語堪能で、それに加えて日本語、そんな環境だからでしょうか?この国のこの大学は学生数が全学部合わせると6万人のマンモス総合大学です。建物は古いですが、教室にはホワイトボードがあり、プロジェクター、パソコン、コピー機など、日本と同じようなものが揃っています。写真では少し見えにくいですが、芝生の庭にバラとナツメヤシとジャガランタ、オリーブ、それに竹!はこのあたりではよく見かける植物です。今日の授業ボイコット、学生デモは日本の学生運動を体験している私としては、ずいぶん和やかで楽しそうな学生集会でした。



学生デモの様子。  
校庭で集会をしています。

☆平成25年度賛助会員募集!!☆

一般財団法人熊本市国際交流振興事業団では賛助会員を募集しています。当事業団の活動にご理解とご支援をいただくと共に、さらなる国際交流や国際協力の輪が広がることを願っています。

会員の方々には、事業団の機関誌『ニュースレターくまもと』の送付や様々な情報の提供をさせていただきます。また、当事業団主催講座の受講料会員割引特典や、国際交流会館駐車場の割引もあります。

- ①個人会員 一口 2,000円/年(一口以上)
- ②団体会員 一口 10,000円/年(一口以上)

平成26年3月までの会員期間となります。

<入会のお申し込み・お問い合わせ>

一般財団法人 熊本市国際交流振興事業団事務局  
〒860-0806 熊本市中央区花畑町4-18 熊本市国際交流会館  
TEL:096-359-2020 FAX:096-359-5783  
E-mail:ad-info@kumamoto-if.or.jp

継続・新規ご加入ありがとうございました。

(平成25年9月21日～平成25年12月19日現在にご加入いただいた皆様)〔個人〕50音順(敬称略)

- |        |        |        |        |        |
|--------|--------|--------|--------|--------|
| 網代 晴美  | 清永 ミノリ | 谷 瑞恵   | 藤本 美香  | 本村 由美  |
| 荒木 ひとみ | 佐藤 奈留美 | 俵 桂子   | 古家 友紀子 | 森田 恵美子 |
| 有馬 大三  | 澤田 多哉子 | 豊永 温加  | 程塚 照夫  | 森田 まり子 |
| 泉 逸子   | 白石 善吾  | 中山 香代子 | 松田 加洋子 | 森本 優貴美 |
| 江邑 亜美香 | 白石 元美  | 中山 由香里 | 松田 幸正  | 山口 富美江 |
| 緒方 真由美 | 白石 保子  | 野添 陽子  | 松永 美紀  | 吉里 未佳  |
| 加悦 豪   | 鷲見 幹奈子 | 東 まゆみ  | 水野 真澄  | 吉里 行治  |
| 金光 利恵  | 多々 隈京子 | 平住 美香  | 村上 千鶴  |        |

私たちは熊本の国際交流活動を応援しています!  
(団体)50音順(敬称略)

- London Bridge International School
- 医療法人社団 愛育会 福田病院
- 学校法人 君が淵学園 崇城大学
- 学校法人 鎮西学園
- 株式会社 ニュースカイホテル
- 株式会社 まちづくり熊本
- 株式会社熊本シティエフエム
- 九州農水株式会社
- 熊本学園大学
- 熊本交通センターホテル
- 熊本市地域婦人会連絡協議会
- 熊本日独協会
- 熊本市米協会
- コスギ不動産
- 財)熊本市駐車場公社
- 志成館高等学校
- マルヒサ食品



- 阿蘇くまもと空港より 車で45分
- 熊本交通センターより 徒歩 3分
- 熊本市電停花畑町より 徒歩 3分

from Aso-Kumamoto Airport-45minutes by car  
from Kotsu Center-3minutes walk  
from "Hanabata-cho" tram stop-3minutes walk

熊本市国際交流会館 国際交流サポートセンター

開館時間 午前9時～午後8時  
多文化共生オフィス(午前11時～午後6時)  
096-359-4995(直通)

休館日 第2・第4月曜日、年末年始(12月29日～1月3日)

Civic Support Center for International Exchange and Cooperation  
Kumamoto City International Center  
Service Hours: 9:00 a.m.-8:00 p.m.  
Multicultural affairs office (11:00a.m.～6:00p.m.)  
096-359-4995 (Dial-in)  
Closed: 2nd and 4th Mondays of each month, Dec. 29th～Jan 3rd